

# まちづくり構想（案）の検討について ～ 再生に向けた具体的な取り組み項目の検討 ～

資料2

## 1. 「第2回まちづくり検討会」におけるまちづくりの方針・方策に係る意見の整理

	①住宅（住環境・周辺緑地を含む）	②センター地区
<b>Aグループ</b> (都市再生機構の地区内および近接する自治会・町内会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑豊かな環境がこの団地の良いところである。</li> <li>・他地区につながる緑のつながり(グリーンベルト)があれば望ましい。</li> <li>・竣工から相当年が経過しており、間取り等が時代に合わない部分がある。若い世代が住みたくなるような住棟もしくは住戸をモデル的に作ってみるとよい。</li> <li>・団地の数街区ごとに、空いている住戸を開放し、高齢者や子育て世代が相談できるような場所にする等住民のために活用できればよい。</li> <li>・団地内外を結ぶコミュニティバスがあれば、団地の住民だけでなく周辺の人々もセンター等に訪れやすくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化のため、買い物に不便している人が増えてきている。御用聞きのような仕組みがあれば、買い物に困っている人にとって便利である。</li> <li>・子供のための映画会や団地の祭には、多くの人が集まる。屋外にステージを作ることなど、活動の場をもっと増やせば活性化する。(特に文化活動)</li> <li>・木曾山崎センターは予約がとりにくいほど需要がある。活動の場をさらに充実させるとよい。また、生涯学習プログラムを行うなど、人が集まるような仕掛けが必要。</li> <li>・図書館は、本来子どもや高齢者が多く集まる場所である。しかし、施設の規模が小さいことにより、対応しきれっていない部分がある。</li> </ul>
<b>Bグループ</b> (東京都住宅供給公社の地区内および近接する自治会・町内会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペット専用住棟や空きスペースを家庭菜園にする等の方法はコミュニティ活性化の観点で良いと思う。但し実施するためには、管理ルールを定める必要がある。</li> <li>・竣工から相当年が経過しており、時代の変化に応じた改善が必要である。高齢者の場合、段差での転倒事故も想定されることから、バリアフリー化は重要である。</li> <li>・空き部屋となっている住戸を、ふれあいサロンや高齢者のためのコミュニケーションスペース、防災倉庫等住民のために活用できればよい。</li> <li>・いざという時の備えとして、防災備蓄倉庫などの防災関係の設備を充実させてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は団地住民の生活に直接結びつくような店が少ない。スーパーを日常的に利用しているので、スーパーの近くにコミュニケーションができるような場があればよい。</li> <li>・木曾山崎センターは需要が高く予約が取りにくい状況である。木曾山崎センターのような地域の住民が活動できるスペースは重要である。</li> <li>・色々なイベントができる小ホールのようなものや、センター地区の広場で、若者向けの路上ライブや、子供向けの大道芸などのイベントを行えば、人を集めることができる。</li> <li>・団地の花火大会は、周辺地区の住民も楽しみにしていることなどから、バス路線の充実を図れば、より多くの来街者を呼び込むことができる。</li> </ul>

## 2. 上記を踏まえたまちづくりの方針・方策のまとめ

<p><b>①住宅（住環境・周辺緑地を含む）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の緑豊かな住環境の維持・保全、緑のネットワークの形成。</li> <li>・多様化するライフスタイルに対応した魅力のある住環境の形成。</li> <li>・団地居住者のニーズに対応した機能の導入。</li> <li>・防災・防犯対策の推進による安心安全な住環境の形成。</li> </ul>	<p><b>②センター地区</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団地地区外の方も訪れる便利で魅力のあるセンター機能の形成。</li> <li>・多様な世代が交流し、活動できるコミュニティ活動の拠点。</li> <li>・人が日常的に集い交流する団地地区の広場の形成。</li> </ul>
--	--

## 2. 今回の検討テーマについて

まちづくりの目標、方向性  
(昨年度の検討結果より)

### 【まちづくりの目標】

新しい魅力と人の和を生む団地再生のまちづくり

### 【まちづくりの方向性】

#### ①安心して暮らせるまちづくり

・防災・防犯体制を強化すると同時に、住戸の改善、医療・福祉・介護等の充実を図る。

#### ②楽しく交流できるまちづくり

・多様な世代やライフスタイルの人達が、気軽に集い、交流することができる場を作り、コミュニティを再生する。

#### ③利便性の高いまちづくり

・すべての居住者にとって暮らしやすい生活サービスや公共交通を充実させる。

#### ④周辺から訪れたい魅力のあるまちづくり

・地区外から訪れたい、住みたい、歩きたいような団地の魅力を作る。

#### ⑤環境を考えたまちづくり

・緑があふれ、敷地にゆとりのある住環境を生かしつつ、省エネルギーや省資源対策へも配慮した団地を目指す。

まちづくりの目標を実現するために  
必要な機能・取組み

現在の木曾山崎団地地区は、(1)住宅、(2)センター地区、(3)学校跡地のエリアに分類できます。

#### (1) 住宅（住環境・周辺緑地も含む）について

①多様な世代が安心して豊かな暮らしを続けるために必要なこと。

○

○

②周辺の方も住みたい住宅団地を形成するために必要なこと。

○

○

#### (2) センター地区について

①多様な世代が安心して豊かな暮らしを続けるために必要なこと。

○

○

②周辺の方も住みたい住宅団地を形成するために必要なこと。

○

○

#### (3) 学校跡地について(※)

①多様な世代が安心して豊かな暮らしを続けるために必要なこと。

○

○

②周辺の方も住みたい住宅団地を形成するために必要なこと。

○

○

※昨年度の検討では、①防災主要拠点、②子育て支援拠点、③健康増進関連拠点、④文化関連拠点、⑤教育関連拠点が提案されました。



### 3. 現在の木曾山崎団地地区

